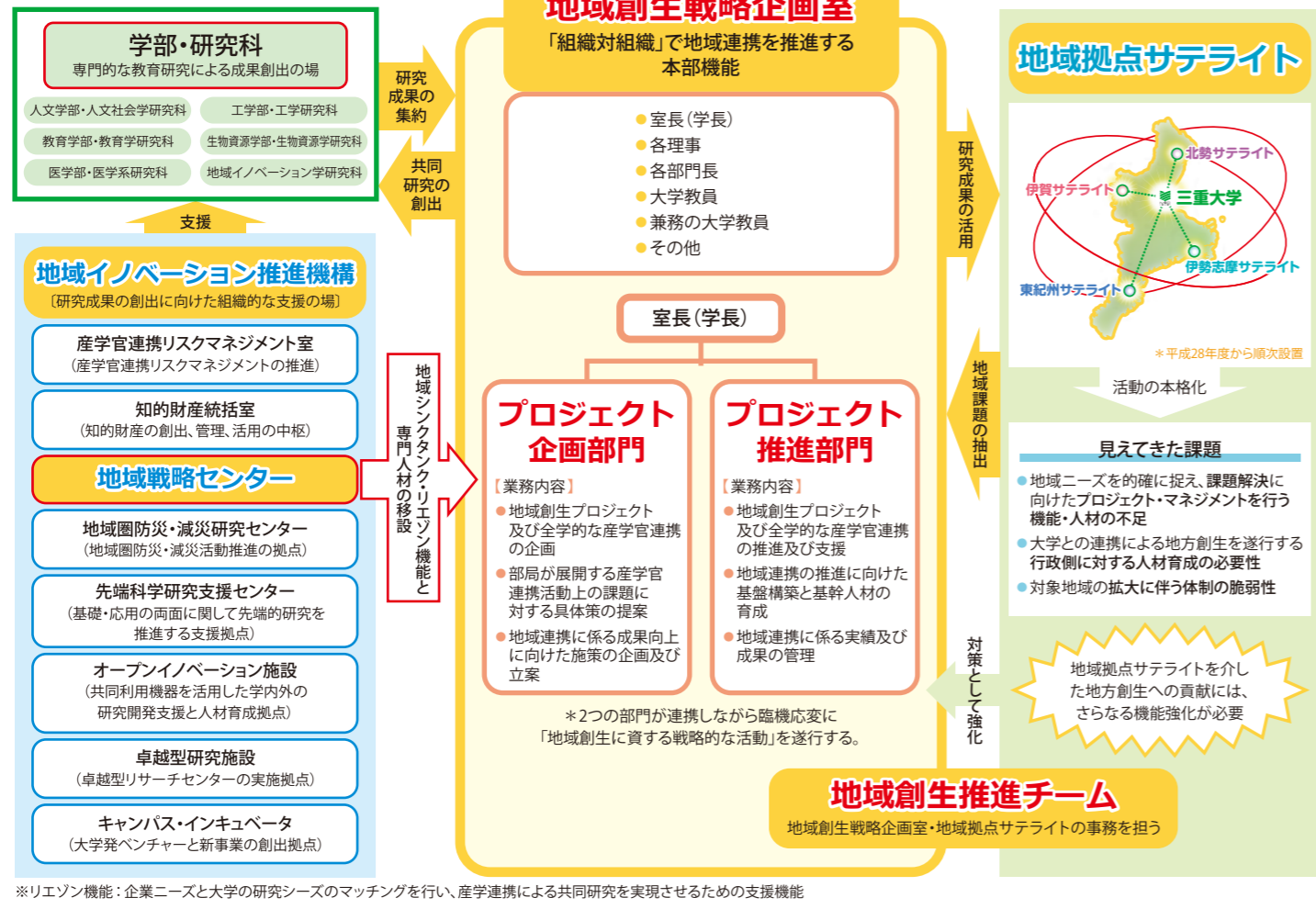


“地域創生戦略企画室とは”

三重大学では、平成30年4月から、地域創生の推進を行うプロジェクトを全学を総合的に見ながら組み上げ、本学の研究力・教育力を深化させることを目的に「地域創生戦略企画室」を設置しました。

◎組織図◎



地域創生戦略企画室の主な業務は「プロジェクトマネジメント機能・体制の強化」「基幹人材の育成・蓄積」「地域創生に資する本部機能の整備」です。駒田美弘学長が室長を務め、どの学部にも属せず、学長・理事の経営責任に基づく判断の下で運営されます。また、「プロジェクト企画部門」、「プロジェクト推進部門」の2つの機能・部門を持ち、それぞれ社会連携担当の西村訓弘副学長、地域創生担当の松田裕子副学長が部門長を務めます。

企画部門は地域創生プロジェクトの起案、具現化、組み上げを担当し、推進部門は各部局・機構と連携し、プロジェクト遂行を支援、あるいはプロジェクトの企画・構築・実施を活用した学内外への基幹人材の育成を担当しています。従来、地域イノベーション推進機構にあった地域戦略センターをすべての教職員とともに地域創生戦略企画室へ移し、また事務組織としては地域創生推進チームを新設し、地域創生戦略企画室と地域拠点サテライトの事務を担います。

学長事前インタビュー

地域創生戦略企画室(以下、企画室)は出入口の部門です。研究や連携などの案件は学外から直接持ち込まれ、また学内から企画室を通して直接外へ出ていきます。学外から受け取ったものは企画室で考え明確化し、大学に合う形にして学内に持ち込み、学外に出すときには、大学の付加価値をつけて企業・市町等のそれぞれのステークホルダーに合う企画する必要があります。今はまだ共同研究、市町との連携等、手の届く範囲でノウハウや経験を蓄積していく段階ですが、将来的には企画室自身が三重県全体、日本全体、世界を見て、三重大学の企画室として行うべきことを考え、オリジナルの企画を提案できるようにになれば素晴らしいと思っています。



- 左から
- プロジェクト推進部門長 松田 裕子 副学長(地域創生担当)
 - 地域創生戦略企画室長 駒田 美弘 学長
 - プロジェクト企画部門長 西村 訓弘 副学長(社会連携担当)
 - 地域創生推進チーム課長 大畑 歩
- 設置から半年! トップに聞きました!

地域創生戦略企画室が設置されて約半年、動きや手ごたえは

駒田学長: 学外の方が企画室を今どう見ているかという情報があれば聞きたいですね。西村先生、松田先生から見てどうですか。

西村副学長: 私は、今回発展的に企画室に移行した地域戦略センターの責任者として動いていたのですが、なんとなくまだ同じ感覚でとらえられているように感じます。

駒田学長: 初めは同じでいいと思います。企画室の構想のきっかけは、企業や市町の方からの「共同研究等の相談をどこに言ったらいいかわからない」という声でした。あくまで大学全体をまとめていく窓口として、学外から見て少しでもわかりやすくなればいいと思います。

西村副学長: その意識は持っていたように思います。

大畑課長: 伊賀、伊勢志摩、東紀州地域のそれぞれの市町に訪問し、企画室という組織の設置についてご説明しましたので、徐々に認識はいただいていると思います。今後、他の地域にもご説明に伺えればと思います。

松田副学長: 伊勢志摩地域に関しては、三重大学の地域創生への取組がかなり浸透してきたように思いますが、新設された地域創生推進チームは企画室担当よりも地域拠点サテライト担当というイメージが強いようです。

西村副学長: 外部の方と話をするとき組織対組織で対応できることになったので、少しやりやすくなったと思います。社内に企画室や戦略室がある企業は、それに当たるものが大学に設置されたら認識してくれます。市町でも、組織的な立ち位置を理解してくれれば、連携しやすくなっていくのではないのでしょうか。

駒田学長: 企業や市町の方には企画室のことをよく知っていただきたいですね。企業の企画室に似た機能はあっても、大学の企画室では教育や研究をよりよくするために企画や推進を行います。完全に同じではないということも理解してもらえればと思います。

地域創生戦略企画室の役割とは

西村副学長: 学長が企画室の役割を「出入口」と表現されたのは非常に良い表現だと思います。学内の教員の研究をそのまま学外に持ち出すのではなく、活かし方を提案して仲介することで、ものすごく光って見えるようになります。地域戦略センターでも行ってきましたが、属人的で局所的でした。これを組織として行っていくといいと思います。

駒田学長: 学外からの要望や、学内の多くの研究分野、それぞれが独立しているのを、いかにかみ合わせて提案できる形にするかということだと思います。そういうネタを内外から見つけて、まとめ上げていく機能・役割をなんとかやれるようになってくるといいと思います。

大畑課長: まだまだできていないところもありますが、確かにそういったところが本来、企画室が担う部分かなと思います。

西村副学長: 内部人材をきちんと育成するのも重要ですし、外部の力も借りながら、経験を積み上げて動かしていく必要がありますね。

駒田学長: 企画を進める以外にも、全学を見て、地域貢献や共同研究がバランスよくいい形でやれているようにしてほしいですね。分野や地域に大きな偏りがあるようなら、企画室が戦略的に幅を広げていくようなことも必要だと思います。

今後の展望・目標について

駒田学長: まずは、教員や学生を巻き込んでいきたいです。テレビ電話の設備を作って、月に一回は各市町長と会話とか、そういった具体的なアクションがあると面白い感じします。松田先生はよく市町へ足を運んでいただいているので、他の先生にも来てもらって、実際にお話をさせていただくのもいいかなと思います。企画室はどっどん夢をもってやっていきたい。「市町の首長と語る会」をやってはどうかという話もあります。

大畑課長: そうですね。三重大学の学生が首長と語る会。

駒田学長: このような学生が市長さん町長さんに会いに行ってお話をするとか、いろんな企画が山ほどあります。学生が首長とどんな話をしたのか聞きたいですね。

西村副学長: 学生にレポートさせて、「えっくす」に記事を掲載するのはどうですか。シリーズ化して、各市町に順に学生がインタビューに行って市長との座談会を行うような企画をしてもいいですね。

駒田学長: インターンシップもそうですが、学生には学外にも出て行って勉強してもらいたいと思います。企業の方と実施している共同研究の割合にしても、各学部によって大きく差があります。学内で研究に没頭しているだけでなく、学外へも目が向けられるといいですね。

